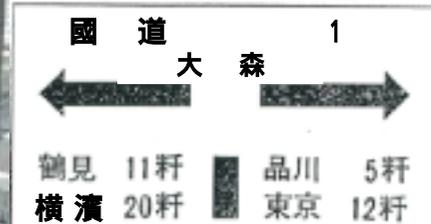
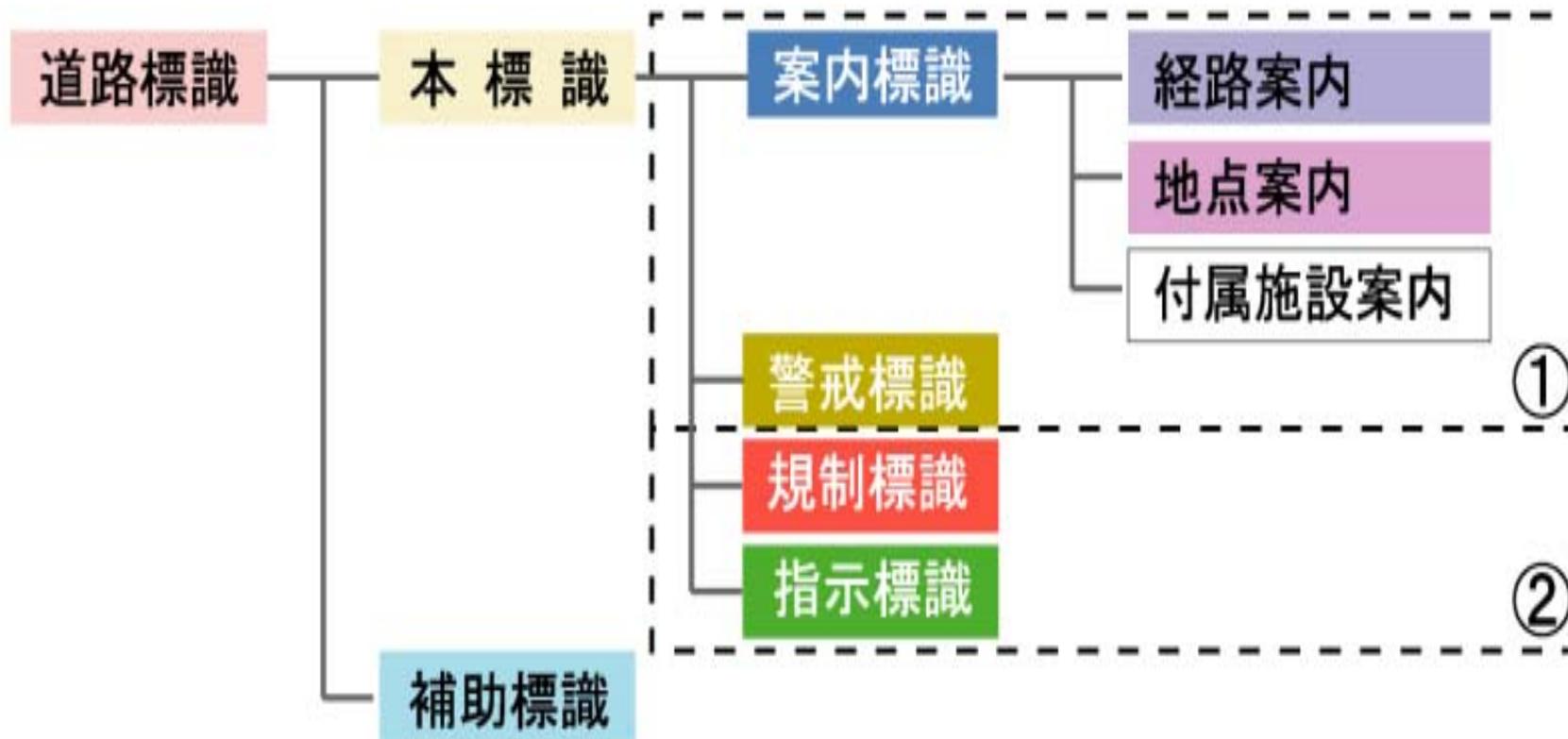


道路標識の概要



道路標識の区分



:主に国土交通省、都道府県、市町村など道路管理者が設置

:主に都道府県公安委員会が設置

1. 案内標識

1) 経路案内



2) 地点案内



目的地・通過地の方向、距離や道路上の位置を示す

道路標識の区分

2. 警戒標識



注意深い運転を促す

禁止、規制、制限等

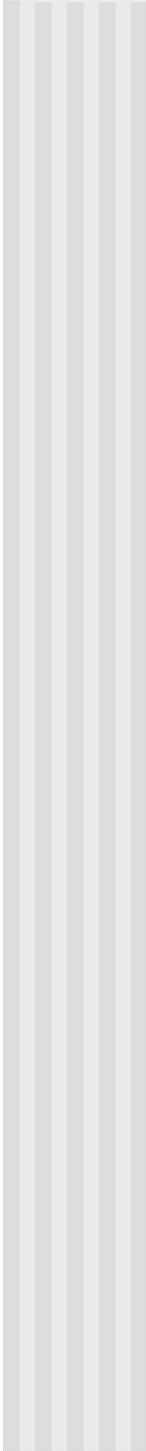
通行する上で必要な指示

3. 規制標識



4. 指示標識

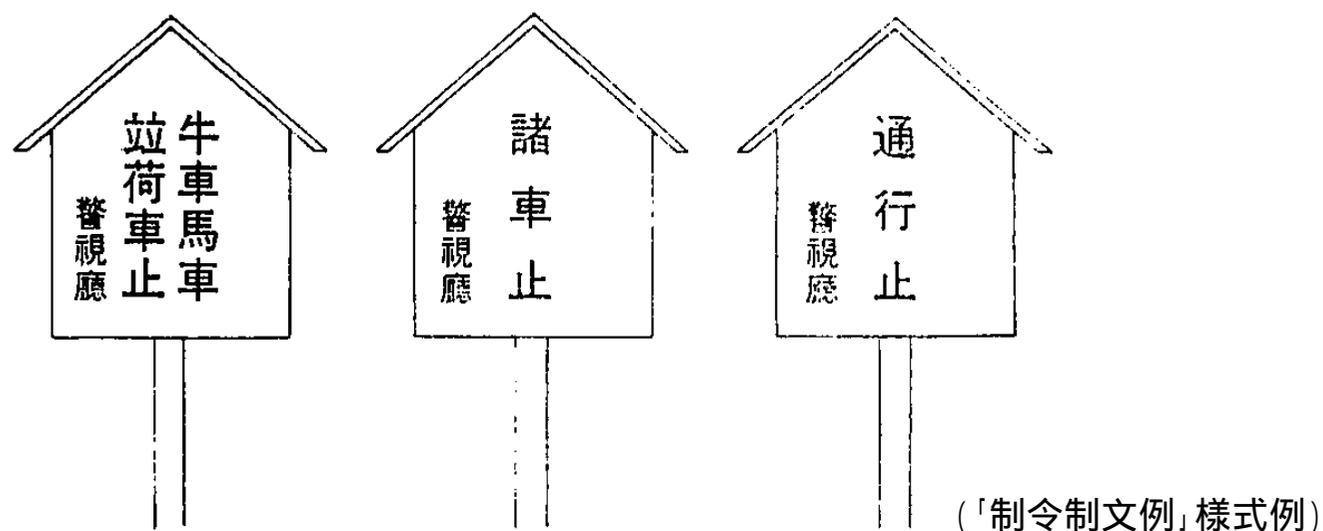




道路案内標識の変遷

(明治時代)

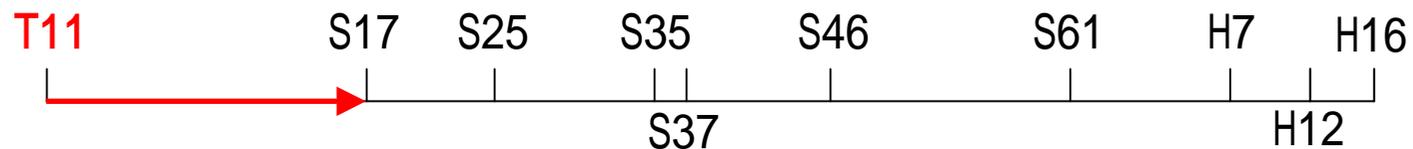
- 交通に関する禁止について、「^{せいさつ}制札」と称した立て札が設置されていた。
- 明治32年、警視庁では「制札制文例」を通達として告示。



- 東京府下の地域に限定されるものだったが、「標識令」の原型とも言われている。

(道路標識等解説 2.道路標識等の歴史 時崎賢二氏 交通工学 より)

道路案内標識の変遷

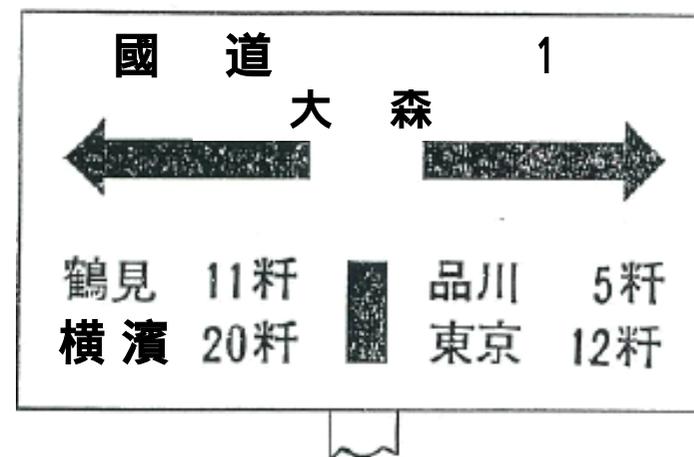


大正11年

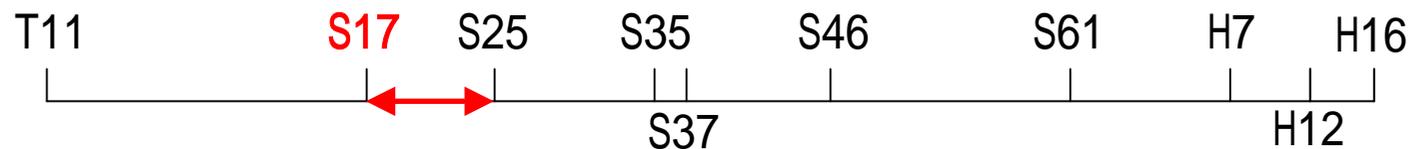
内務省令「道路警戒標及び道路方向標に関する件」

■概要

- 標識の全国統一を図るため、初めて体系化
- 標示板は白地、文字・符号は黒ペンキと規定



道路案内標識の変遷



昭和17年

内務省令「道路標識令」改正

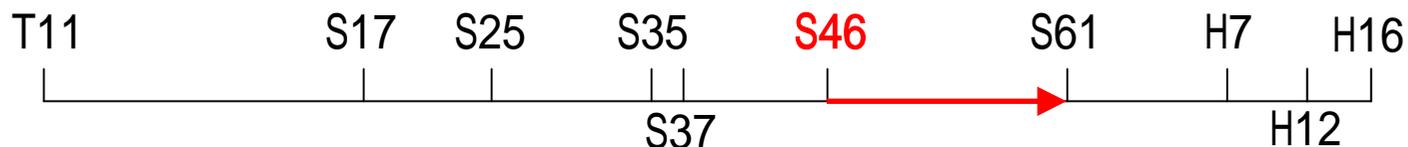
■概要

- 初めて「道路標識」の呼称が誕生
- 「案内標識」として1種類を制定
- 道路種類、現在地点名、方面、方向又は距離を表示



道路案内標識の変遷

昭和46年 標識令改正

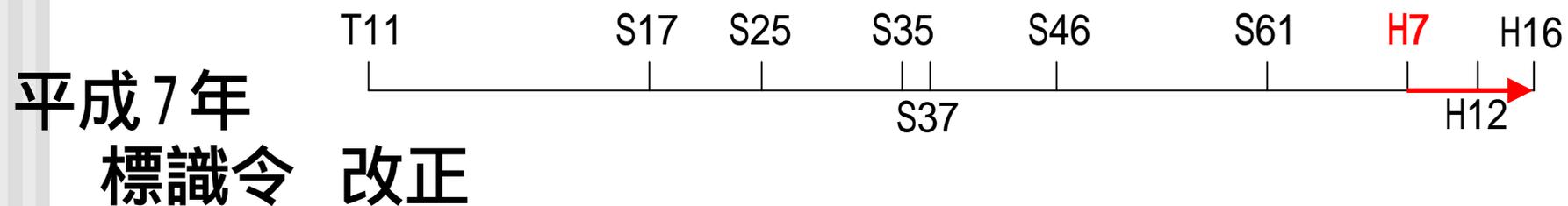


■概要

- 標識の劣化抑止および視認性確保のため、
全ての「方面, 方向標識」を青地に白文字へ変更
- 視認性向上のため、ローマ字表示の義務化を廃止
- 経路案内標識に路線番号、通称名の表示が可能
- 都道府県道番号標識を位置づけ

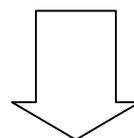


道路案内標識の変遷



■概要

路線番号・通称名による経路案内の促進
景観への配慮



交差点部における小型路線番号標識を位置付け



(国道用)

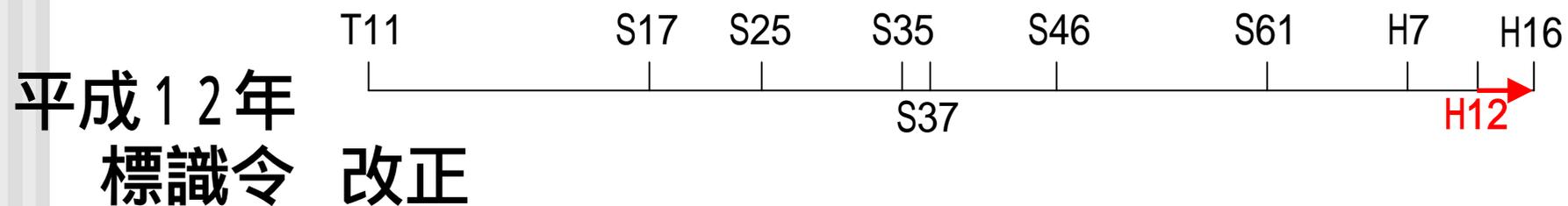


(主要地方道用)



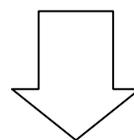
(一般都道府県道用)

道路案内標識の変遷



■概要

交通バリアフリー法の施行



歩行者に対し、移動円滑化施設を示す標識
を位置付け



道路案内標識の変遷

昭和38年 標識令 改正



概要

高速道路の整備に伴い、高速道路に設置する案内標識を制定

外国事例に加え視認性確保の観点で**緑地白文字**



昭和42年 標識令改正



■概要

高速道路名称による入口案内

都市高速道路を対象に、矢印を付記して出口の
方向も案内する**出口予告標識**を位置づけ



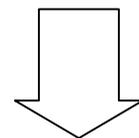
道路案内標識の変遷

平成7年
標識令 改正



概要

路線番号や通称名による経路案内を促進

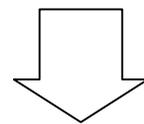


都市高速道路における**ルート番号標識**を位置付け



安全かつ円滑な交通確保
のため

まず第一に、視認性の確保が重要



文字の大きさ、配色等が規定

その上で、

国際化に対応したローマ字表記

景観に配慮し、小型化

バリアフリーへの対応

等を実施